

科目	運動器障害理学療法学実習	担当	太田 進	履修学年	3年
時間数	90分×時限×24回(週1回)	履修区分	必修	単位数	1単位

【授業目標・到達目標】

運動器障害理学療法学実習では、2年次に学習した運動器障害理学療法学をもとに実習形式で講義を行う。多くの実習では理学療法評価と治療について代表的疾患の障害モデルを提示しながら進めていく。

受講者は、この講義で運動器障害の理学療法について再学習するとともに、理学療法評価と治療の実施が行えるようになる。

【履修注意】

講義のほとんどが実習形式で行われるため、実技の可能な服装で参加すること。

計画・内容について変更の場合があるので注意すること。

【評価方法】

出席状況、授業態度、定期試験などから総合的に評価する。(欠席が1/3を超える学生は受験不可)

【試験について】

試験については、実技試験を実施する。

再試験対象者の条件：本試験で60点未満を再試験の対象とする。

【予習・復習】

学修時間は1単位45分が文部科学省指針である。1単位科目は90分の講義に対して45分、2単位科目は90分の講義に対して90分の自宅学習(予習、復習)が必要である。

理学療法評価診断学、整形外科学、運動器障害理学療法学で習得した知識を十分に予習・復習して講義に参加すること。

【教科書】

書籍名：整形外科術後理学療法プログラム 著者：島田洋一(編) 出版社：メジカルビュー社

【参考書】

書籍名：骨・関節疾患の理学療法 著者：島田洋一(編) 出版社：メジカルビュー社

書籍名：スポーツ外傷・障害に対する術後のリハビリテーション 著者：内山英司(監) 出版社：運動と医学の出版

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	運動器障害のリハビリテーション総論	運動器障害リハビリテーション総論、整形外科的治療、理学療法治療、問診、正常歩行
2	動作分析	歩行分析、膝・股関節疾患の特徴的な歩行
3	関節可動域および徒手筋力検査	疾患を想定した関節可動域および徒手筋力検査。計測肢位の考慮
4	関節可動域および徒手筋力検査	疾患を想定した関節可動域および徒手筋力検査。計測肢位の考慮、確認実技テスト(OSCE形式)
5	股関節疾患の評価	変形性股関節症、大腿骨近位部骨折症例等を想定した検査測定
6	膝関節疾患の評価	変形性膝関節症、膝関節前十字靭帯損傷症例等を想定した検査測定
7	足・肩関節疾患の評価	足関節骨折、肩関節腱板損傷症例等を想定した検査測定
8	股関節疾患の理学療法	変形性股関節症、大腿骨近位部骨折症例等を想定した理学療法
9	膝関節疾患の理学療法	変形性膝関節症、膝関節前十字靭帯損傷症例等を想定した理学療法
10	足・肩関節疾患の理学療法	足関節骨折、肩関節腱板損傷症例等を想定した理学療法
11	運動器疾患の理学療法実技	運動器疾患の理学療法実技に関する確認実技テスト(OSCE形式)
12	まとめ	定期試験
13		
14		
15		
16		